

2021年5月30日主日礼拝

『あなたの創造者を覚えよ』

伝道者の書12:1

## 聖書箇所

！あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。わざわざの日が来ないうちに、また「何の喜びもない」と言う年月が近づく前に。

導入：覚えるということ。

今日は親子礼拝が行なわれる日です。第2礼拝の時間にグランドで行われます。そこで、せっかくですので、童心に帰って動揺を一曲聞いてみたいと思います。何年か前に韓国のCMで使用され大人気になった童謡です。後ほど歌詞の内容を説明しますので、まずは聞いてみてください。サビの部分だけを流しますね。

### ·아빠 힘내세요 動画

この曲は子どもたちがお父さんを励ます歌です。帰って来たお父さんが何か元気がないことを心配した子どもたちがパパ頑張るね。私たちがいるからね。と歌っているのです。疲れている時、うつむいてしまっている時は僕たちを覚えて元気出してという願いが込められているんですね。この童謡が採用されたCMで使用されると、実際多くのサラリーマンが慰めを受けたというインターネット記事を目にしたことがあります。大変なときに子どもたちの顔を思い浮かべると力が湧いてくるというのです。

このように私たちは誰かのことを覚えると力が湧いてくるということが確かにあります。子どもたちはもちろんのこと、家族や友人など、自分にとって大切な存在を思い浮かべて逆境を乗り越えたという経験は、多くの人が持っていることでしょう。

私は今年でTEENS主事の働きは4年目になるのですが、TEENS礼拝のメッセージを準備する時に自分の中高生時代はどうだったか？ということをよく考えます。TEENSの子どもたちの姿を思い浮かべながら自分の中高生時代を比較してみるのです。

私は中高生時代、信仰生活というのが面倒で仕方ありませんでした。聖書を読むのも億劫で、みずから進んで聖書を開き、みことばを読んだことがほとんどありません。聖書を読まなくても生活に何の支障もないし、困らない。なのに、なんでわざわざ聖書を読まなくてはいけないのか。その時間に漫画を読んでいた方が楽しいじゃないか、そんな風に思っていたのです。そんな私が今では年に最低でも2回聖書を通読しています。スマートフォンやiPadにも聖書のアプリをインストールしていつでもみことばを読むことができるようにしていま

す。私がそのようにしているのは、そうせずにはいられないからです。私がみことばを求めずにはいられないからです。

今日のみことばでは、あなたの創造者を覚えよとあります。創造者を覚えることは私たちにとってとても大切な命令です。今日はこのみことばを深く瞑想したいと思います。

## 本文 1: 若い日

**1 あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。わざわいの日が来ないうちに、また「何の喜びもない」と言う年月が近づく前に。**

まずこのみことばの中で、いつ創造者を覚え、なぜ創造者を覚えることが必要なのかを、皆さんと考えたいと思います。最初に、いつ覚えるのかについてですが、ここには若い日、とあります。創造者を覚えるのは若い日にせよというのです。ここで一つ疑問が出て来ます。若い日とは一体いつでしょう？年齢で言えばどれくらいになるのでしょうか？体力があり余っている時でしょうか？肌に張りがある時でしょうか？髪の毛がふさふさしている時？どれも曖昧な感じがしますね。私は今年で 40 歳になるのですが、自分ではあまり若いとは思えません。それでも感謝なことに私のことをまだまだ若いと言って下さる方々がいます。

よくよく考えてみるといつが若い日なのかをはっきりと断言することは難しいように思います。果たして若い日とはどんな時のことをいうのでしょうか。同じ**伝道者 11:9**には若さをこのように表現しています。

**9 若い男よ。若いうちに楽しめ。若い日にあなたの心を喜ばせよ。あなたの心のおもむくまま、あなたの目の望むままに歩め。しかし、これらすべての事において、あなたは神のさばきを受けることを知っておけ。**

ここでは若いうちとはあなたの心のおもむくまま、あなたの目の望むままに歩むことができる時と表現しています。この箇所から、私が学んだ神学校のある教授は、若い日とはあなたの人生の内では絶好調と思える時であると説いていました。すべてが上手くいっていると思える時。本当にしあわせであると実感できる時こそが若い日であるということです。今年のテーマ聖句で言うと、「順境の日」ということでしょう。

実は、私の神学校では、20代 30代の神学生だけではなく、40代から 60代の学生が約半数いました。最高齢の同級生は70歳台の方でした。ですから、この教授は年齢の若い人だけにではなく、すべての年代の学生に語りかけていたのです。

“何でも自分の力でできると思う時が若い日です。まさに今の皆さんが若い日を過ごしているといえるでしょう。だから、力の限り頑張ってください。ですが、決して神様を忘れてはいけません。どんな時も。”この言葉は 10 年以上経った今でも私の心に残っています。

というのも、私はみことばよりも他のものを求めやすい者だからです。20代の大学生の頃は、とにかく強くなりたくて筋トレを熱心にしたこともあります。また、お金を求めて無理にアルバイトをしたり、工事現場で早朝から働いたこともあります。学力を求めてひたすら勉強をしたこともありました。あるいは人脈を求めて無理な人付き合いを続けていたこともあります。それらがあれば私の人生が豊かになると信じていたからです。純粋な力。お金。学力。人脈。それに伴う権力。それこそが私の力になると思っていたのです。そして今も、そういった傾向を捨てることはできません。しかし、それらが私に力を与えてくれることはありませんでした。確かに手にしたときは何でもできるという全能感というものを感じることはできます。しかし自分の力で何でもできると思って求めたものは、大切な人との信頼関係や心の平安を失う原因になっていき、私をつまずかせるものへと変わって行くのです。そうしてつまずき倒れてからやっと気づくのです。私を励まし強めてくれるのは、私の創造者だけなのだということを。みことばだけが私を励まし強めることができ、みことばだけが私の求めを満たしてくれるのだということを。

今朝のみことばから、「若い日とは、何でもできると思える人生の時」です。伝道者は、私たちに「そんなときこそ、私たちの創造者を覚えよ」と、語りかけているのです。

## 本文 2:なぜ覚えるのか

そして、このみことばには、若い日と対になる言葉で「わざわいの日」が出て来ます。**伝道者の書 12:1**

**1 あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。わざわいの日が来ないうちに、また「何の喜びもない」と言う年月が近づく前に。**

若い日を自分の力で何でもできる日と受け止めるならわざわいの日は自分の力では何もできない日、逆境の日といえるでしょう。もっと言うならば、自分の弱さを覚える時と言えるでしょうか。今朝のみことばはわざわいの日、逆境の日、「何の喜びもない」という日が来る前に創造者を覚えよと言っているのです。なぜなら、弱さや苦しみを覚える時、力を与えてくれるのが創造者である神様だからです。

ところで、新約聖書は27巻ありますが、その約半数は使徒パウロによって記されています。なぜ、彼によってこれほどたくさん聖書を記されたのでしょうか。彼が強い人だからでしょうか？罪から離れて潔白な人だからでしょうか？弱さなど覚えなような人だったからでしょうか？そんなことはありません。彼が残した聖書の記事を見てみると、彼は沢山の弱さを持っていたことがわかります。**ローマ 7:22~24**

**22 すなわち、私は、内なる人としては、神の律法を喜んでいるのに、**

**23 私のからだの中には異なった律法があって、それが私の心の律法に対して戦いをいどみ、私を、からだの中にある罪の律法のとりこにしているのを見いだすのです。**

**24 私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。**

苦難の中で弱さを覚え、自分の罪のために苦しみ、神様に自分の痛みを取り除くように願う。これがパウロの持っていた“弱さ”だったのです。今の私たちの姿と何も変わりません。パウロの弱さは今、私たちが覚えているような弱さだったのです。もしかしたら、私たちよりも多くの試練を経験していたので、もっと、もっと弱さを覚えていたかもしれません。

そんな弱さを持っているパウロが、自分の弱さを恥じるのではなく、むしろ誇りに思っているといいます。Ⅱコリント 12:9

**9 しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。**

なぜでしょうか。なぜここまで弱さに直面していたパウロがこのように言うことが出来たのでしょうか。彼が自らの弱さを誇るというのは、イエス・キリストの恵みが彼に十分にあったからなのです。

ここで「十分である」というこの言葉は、原語では「途切れることなく続く」という意味を持ちます。イエス・キリストの恵みは、一度与えられたらそれで終わるのではなく、途切れることなく、いつまでも、溢れるほど与えられるものだということです。

パウロは、自分の弱さの中にこそ十分な恵みが完全に現れることによって、自分の弱さを喜びとしたのです。弱さ自体を喜ぶということではありません。彼が喜んでいるのは、あらゆる弱さの中で現れる、イエス様の十分な恵みです。

更に、「おおう」という単語がここで出て来ますが、この言葉には「住む。宿る」という意味もあります。つまり、パウロを喜んで誇らせているのは、彼が弱さの中でこそ知った「イエス様が共にいてくださる」という恵みなのです。続けてⅡコリント 12:10 をお読みします。

**10 ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。**

使徒パウロにとって、弱いときは、無力感で満たされて空しく過ごす、実りのないときではありませんでした。弱いときこそ、十分な恵みのゆえに強いということを証するときだったのです。自分の弱さを持って、イエス・キリストをあらわすことができるからです。

弱さを知る時、わがわいの日こそ、私たちは、キリストのために強くなれるのです。私たちが弱さを経験するときは、私たちと共におられる主を味わう時でもあるのです。息が詰まるような痛みの中であるからこそ、自分の罪のために苦しんでいる時であるからこそ、私たちはイエス・キリストがともにおられる恵みを、より強く感じることができるのではないのでしょうか。

イエス・キリストがともにおられる恵みを覚えるということは、イエス・キリストをこの世に送られた神様を覚えるということです。わざわざの日、私たちの弱さを覚える日は、必ず私たちに訪れます。だからこそ私たちの若い日にも、わざわざの日にも私たちの創造者を覚えましょう。

### 本文3:創造者

3つ目に注目したいのは創造者という言葉です。あなたの神でもなく、主でもなく創造者です。

今の私たちは創造者である神様を直接見ることはできません。その声を直接聞くことができません。だから神様を覚えることはとても難しいように思えます。だからこそ、見えやすいものに、救いを求めてしまいやすくなっていくのでしょうか。そんな私たちはどのようにこのお方を覚えることができるのでしょうか。

私たちは被造物を通して創造者を覚えることができるのではないのでしょうか。**創世記1:1**

#### 1 初めに、神が天と地を創造した。

私たちに与えられたみことばの初めのことばです。みことばは私たちに神様が天地を創造されたことを何よりも先に語りかけています。この世のすべてを造られたのが神様であることをみことばはものすごく強調しているのです。そして、神様が天と地を創造された事実は、私たちが神様を覚えるために大きな意味を持っています。**ヘブル11:3**

**3 信仰によって、私たちは、この世界が神のことばで造られたことを悟り、したがって、見えるものが目に見えるものからできたのではないことを悟るのです。**

天も、地も、山も、海も、平原も、川面、鳥も、獣も、魚も、虫も、雲も、太陽も、月も、星も、人も、この世のすべてが神様によって創造されました。信仰を持たずに被造物を見ると、ただの美しい自然、美しい隣人にすぎません。しかし、信仰をもって被造物を見ると、創造主である神様を覚えることができます。信仰によって私たちは目に見えるものによって創造者を覚えることができます。

最近私は趣味として俳句を詠み始めました。五七五のあの俳句です。とあるテレビ番組で興味を持つようになり、今は本を読みながら勉強をしています。まだ始めて日は浅く、読む俳句に深みがでるのはまだまださきですが、詠むことをとても楽しんでいます。

俳句を勉強するとまず強調されることが二つあります。一つは季節の言葉である季語を必ず入れることです。俳句はもとより、四季折々の万物に触れて心情の吐露などをしてきたものです。だからこそ、季節をあらわす季語を欠かすことはできません。季語だけをまとめた歳時記というものがあるほどなので、俳句に置いて季語

がどんなに大事なものであるか感じる事ができるでしょう。

二つ目は日々出会う物事に興味を持って観察をするということです。俳句を作るには根気力、観察力、描写力が必要です。日々自分の周りにある物事を根気強く観察し、深く考えて描写する力がよい俳句を詠むうえで欠かせないのです。

俳句に強調されるこの二つのことは、私たちが創造者を覚えることに通じると思いませんか？創造物を信仰の目をもって観察すると、想像された神様を見ることができるようです。

正岡子規が詠んだ俳句で次のようなものがあります。

### 赤とんぼ筑波に雲もなかりけり

この俳句には秋晴れの空に赤とんぼが飛んでいる。遠くの筑波山には雲一つないという事実にはハッと気づいた時の驚きがあらわれています。自然の美しさに驚いているんですね。その驚きをあらわしている言葉が“けり”です。けりは過去から今に至るまで、そこにずっと存在していた事実に対して驚いたことをあらわしているのです。

私たちの周りには、神様が造られたもので溢れています。私たちも創造者を覚える方法は、実は私たちの周りに溢れているということを知りたいものです。俳句にすると次のようになるでしょうか。

### 天と地は創造者より創造まれけり

天と地の部分に他の被造物をいれてもいいでしょう。私たちの周りにある創造された者を信仰の目を持って見て、創造者を覚えようではありませんか。

### 結論:あなたの若い日にあなたの創造者を覚えよ

伝道者は私たちに呼びかけます。あなたの若い日にあなたの創造者を覚えよ。わざわいの日が来ないうちに、また「何の喜びもない」と言う年月が近づく前に。

みなさんは今若い日の内を歩んでいるでしょうか。わざわいの日の内を歩んでいるでしょうか。伝道者は私たちを励まします。自分の力ですべてができると思える時でも。反対に自分の力では何もできないと思える時でも。どんなときでも、私たちを造られた神様を覚え、歩んで行きなさい、と。

そして私たちは信仰をもって自然を見る時に、創造主である神様を覚えることができます。信仰によって私た

ちは目に見えるものによっても創造者を覚えることができるのです。

創造者を覚え歩いていきましょう。